

令和4年度 江戸川区立第五葛西小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

| | | | |
|--------------------------|--|-------------------------------------|---|
| <p>学校教育目標</p> | <p>(1) 深く考える子(思考力・判断力・表現力豊かで未知の状況にも対応できる子) (2) 仲よく助け合う子(実際の社会や生活で、人のかかわりを大切にできる子) (3) すずんでやりぬく子(学んだことを人生や社会に生かそうとする子) (4) 体をしようぶにする子(心身ともに健康でたくましい子)</p> | <p>目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像</p> | <p>○児童一人一人を大切に、豊かな心を育む学校 ○確かな学力の定着を保障する学校 ○教員同士が学び合い、支え合い、高め合う学校 ○家庭、地域と協働して教育活動にあたる学校 ○心豊かで優しい子 ○身体も頭もきたえる子 ○最後まであきらめずに取り組む子 ○いつも笑顔で絶やさぬ子 ○児童一人一人を大切に、使命感をもって教育にあたる教師 ○互いに学び合い、支え合い、高め合う教師 ○児童、保護者、地域から信頼される教師</p> |
| <p>前年度までの学校経営上の成果と課題</p> | <p><成果>プログラミング教育をテーマに校内研究を進めたことで、情報機器を効果的に活用した授業を実施でき、児童が楽しみながら学べる授業の実践力が向上した。 <課題>教員の資質・能力の向上を図り、GIGAスクール構想の実現に向けて教育ICT環境を整え、学習活動の一層の充実を目指す。</p> | | |

| 教育委員会重点課題 | 取組項目 | 評価の視点 | 具体的な取組 | 数値目標 | 自己評価 | | 学校関係者評価 | | 来年度に向けた改善策 | |
|---------------------|------------------|---|---|---|------|----|---|----|--|---|
| | | | | | 取組 | 成果 | 成果と課題 | 評価 | | コメント |
| いきいきと学ぶ学校づくり | 確かな学力の向上 | ・7つの主な事業(取組)に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実 ・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実 | ・「確かな学力向上推進プラン」の実施 ・「各教科等の連携教育プログラム」の改善・実施 ・小学校教科担任制の導入 ・東京ベータシフトの活用 ・算数科における習熟度別少人数指導 ・外部指導員と連携した放課後の補習 | 学年末テストにおける到達率80%以上の児童の割合+0.5% 教科担任による授業の実施…週1回 「ライブラリアドバンス江戸っ子studyweek!」の実施…学期1回 放課後の補習(年35回) | A | B | ・習熟度別少人数指導、放課後の外部指導員による補習の成果が基礎的な学力の定着として表れている。 ・自分から課題を見つけたり思考したりする活動が苦手である。 ・eライブラリを活用することができた。 | A | 放課後の補習が成果を上げているように思われる。取り組みを続けてほしい。算数では、少人数指導を取り入れた授業で、更なる学力向上をお願いしたい。次年度も引き続き、教科担任制などお願いしていきたい。 | ・すずんで思考する児童の育成を目指した指導の工夫に取り組んでいきたい。 ・学年に応じて教科担任制を段階的に実施していくことで、児童の学力向上を図ってきたい。 |
| | 体力の向上 | ・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実 ・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上 | ・運動遊び「パワフルチューズデー」の実施 | 「パワフルチューズデー」…年20回 | A | B | ・マラソン月間やなわとび週間など、記録するプリントがあることで児童のやる気や体力向上に繋がっていた。 ・パワフルチューズデーの実施が体力向上の一助となった。 ・クラス遊びでは楽しみながら児童の体力向上を図ることができた。 | A | パワフルチューズデーはとても良い活動なので、今後も続けてほしい。児童の意欲の向上のために目標を設定し、目標達成のために頑張るよう引き続き、取り組んでほしい。 | ・低中高と3週間に1回の間隔での実施なので、下学年と上学年で隔週での実施ができないか検討していきたい。 |
| | 読書科の更なる充実 | ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実 ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実 | ・読書月間 ・保護者ボランティアによる読み語り、図書館整備 | 読書月間…年3回 保護者ボランティアによる読み語り…年12回 | A | B | ・読書科では本の紹介や魅力を伝えたり、書評したりカードを作成し、児童の発達段階に応じた探究的な学習を実施することができた。 ・保護者ボランティアの読み語りや図書整備、朝読書、年に3回の読書月間の取り組みにより、児童が本に親しむことができた。 ・読書月間の図書開放時間があつたことで、児童が図書室を利用する機会が増えた。 | A | 学校図書館の活用、保護者による読み語り等、本に親しむことをぜひ続けてほしい。学校図書館整備も次年度に行い、児童がさらに使いやすいようにしてほしい。年12回の読み聞かせやボランティアの方、今年度もありがとうございます。 | ・読書月間、特定の曜日だけではなく、常時図書室を解放できるように計画をしていきたい。 ・来年度からサテライト化も始まるので、よりよい図書室利用につながる取り組みを考えていきたい。 |
| | 外国語教育の推進 | ・授業力の向上とALTの効果的な活用 | ・ALT講師との連携した授業の実施 | ・計画的にALTの授業を進めることができた。 ・低学年では授業時数の確保が難しかった。児童が楽しく外国語に触れられる授業を目指したい。 | B | B | ・ALTの講師とコミュニケーションを中心とした授業を取り入れてもらいたい。 | B | ALTの講師とコミュニケーションを中心とした授業を取り入れてもらいたい。 | ・低学年では年間12時間は難しく、来年度は夏季休業日が8月末まで延長されることで授業時数の確保の視点でも見直し・検討が必要である。 |
| 特別支援教育の推進 | 共生社会の実現に向けた教育の推進 | ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実 | ・特別支援研修会の開催 ・エンカレッジルームの活用 ・教室環境の整備、教材・教具の工夫 ・特別支援夕会での情報交換(月1回) | 特別支援研修会…年3回 特別支援夕会…年10回 | B | B | ・定期的に特別支援夕会が開かれることで、支援が必要な児童の状況を学校全体で共通理解が図られ対応することができた。 | A | 特別支援研修会、エンカレッジルームの活用、教室環境の整備、教材・教具の工夫など、様々な取り組みが良い影響を与えているように思う。次年度はさらに特別支援研修会と情報交換会の充実をお願いしたい。 | ・エンカレッジルームがいつでも誰でも使いやすいように整備し、時間割担当と相談しながら担当教員が配置できるよう工夫していく。 |
| | 子供たちの健全育成 | ・子供たちの健全育成に向けた取組 ・Q-Uの活用(家庭との連携) ・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実 | ・いじめ防止に向けた取組 ・生活指導連絡協議会での情報交換 ・特別支援研修会の開催 ・エンカレッジルームの活用 ・教室環境の整備、教材・教具の工夫 ・特別支援夕会での情報交換(月1回) | いじめ防止週間…年3回 Q-Uの実施と分析…年1回 生活指導夕会…年30回 特別支援研修会…年3回 特別支援夕会…年10回 | A | B | ・いじめ防止週間やアンケートの実施により、情報共有を図りながら学校としての対応ができています。 ・学期ごとの生活アンケートの結果を基に、児童から話を聞く機会を確保し、生活指導に当たることができた。 | A | いじめ防止に向けた取組やQ-Uの活用、生活指導連絡協議会での情報交換など、様々な取り組みが良い影響を与えているように思う。引き続き、次年度もお願いします。 | ・今年度よりSSWが配置されたので、必要に応じて連携を図ってきたい。 ・引き続き、「報告・連絡・相談」を徹底し、校内の共通理解を図ったうえで、学校全体として取り組んでいきたい。 |
| 学校と家庭、地域、関係機関との連携強化 | 学校関係者評価の充実 | 教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善 | ・評価項目を整理し、学校評価の効率化、適正化を図る。 | 重点目標、取組、指標等の周知…5月まで 中間評価の周知…9月まで 外部アンケート等の実施…2月まで 最終評価の公表…3月 | A | B | ・アンケートの時期や評価方法についてはよい。アンケートの回収方法はICTを使って、よりよいものにしていけると良いと感じた。 | A | ホームページやすぐサポート会議など学校情報等も適切に発信していると思う。展示会や学校行事など招待される機会も増えた。次年度も、教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善にぜひ取り組んでほしい。 | ・アンケートの方法はICTを使って、保護者がより回答しやすく、教職員も集計しやすいものへと変えていきたい。 |
| | 教員研修の充実 | ・学習用タブレットを活用した授業実施に向けた研修 | ・外部講師・校内講師によるICT研修機器の使用方法について | ICT研修…年3回 学校訪問…月4回 | B | B | ・ICT研修ではICT支援員を外部講師として招き、専門性ある立場からタブレットやアプリの使い方、リテラシー教育などについて教えていただき、教員が研鑽することができた。 | A | 学習用タブレットを利用して情報を発信されていると思う。ICT研修など、さらにタブレットを活用してほしい。 | ・来年度のICT支援とも相談の上、研修を進めていきたい。 |
| | OJT研修 | ・校内講師による研修(夏季休業中) | ・校内の講師による各教科・領域、生活指導や保護者対応についての研修 | OJT研修…年5回 | B | B | ・各教科の学習指導や生活指導などでも学びが広がり、授業力の向上だけではなく児童理解の視野が広がった。 ・若手教員への研修の充実が必要である。 | A | 夏季休業中に研修をするなど、OJTで教わったことが生かされているようだ。 | ・来年度は教員からアンケートを取り、それぞれの課題に合った研修を考えていきたい。 ・若手教員が授業を参観したり、授業を公開する機会を設けるなど、学習指導や生活指導のさらなる向上できる取り組みを考えていきたい。 |
| 特色ある教育の展開 | 「学校における働き方改革プラン」 | 「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施 | ・定時退勤日の設定 | 定時退勤日…月12回 | B | B | ・定時退勤日を月12回設定し、実施することができた。 ・定時退勤日を設定したにも関わらず、業務が多く残業する教員が多かった。また、休日に出動して業務をせざるを得ない状況もある。 | A | 「学校における働き方改革プラン」にこれからも積極的に取り組んで行ってほしい。 | ・働き方改革については、校務を精選するなどして、残業時間や休日出勤の回数を減らしていく。 |
| | 小中連携教育の推進 | ・「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携プログラム」による連携の備実 | ・中学校とのふれあいコンサート ・初任者研修における教員間の交流 | 全教員が連携プログラムを理解し実施 研修における交流 | B | B | ・各校の主幹同士で「小中連携教育構想」及び「各教科プログラム」による連携について情報公開を行った。 ・昨年に引き続き、ふれあいコンサートの実施、2年ぶりの小学校での授業公開が行え、意見交換を行う | A | 小中連携はぜひ進めていってほしい。次年度も、中学校のふれあいコンサートの開催を希望する。 | ・感染症対策緩和を受け、これからの連携のあり方について小中の教員と相談しながら、よりよいものになるよう考えていきたい。 |